



但馬やまびこの郷
令和3年2月
Web版

□□□—□□□□

不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷

URL <http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

E-Mail Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

心のエネルギーをためて、次の一歩を！

県立但馬やまびこの郷では、豊かな自然・人・地域とふれあう活動を通して心と体にエネルギーをため、学校復帰や社会的自立をめざして支援しています。今年度も多くの児童生徒の受入れを行っており、参加した児童生徒の居場所づくりや絆づくりに取り組んできました。様々な体験活動を通じて、児童生徒に、次の一歩を踏み出すための心のエネルギーがたまっていることを実感します。

今年度来所した児童生徒の保護者からお手紙をいただきました。その一部を紹介させていただきます。

初めてやまびこの郷に行った帰りに、「もっと早くやまびこの郷に行っていたらよかったな」と子どもが言っていました。本人は、学校の延長のようなイメージだったようです。また、今年度は、新型コロナウイルスの影響で利用人数が少なく、知らない人がいると緊張する本人にとっては、手厚く支援していただいている状況はとても恵まれていると感じています。また、子ども同士の会話は少ないものの、他の子がどんな会話をしているのかは、よく聞いているようです。本人としては、交流を持つきっかけを作ろうとしているようにも感じます。

これまでの本人の性格として「なかなか一歩が踏み出せない」こともありましたが、やまびこの郷に行くたびに、一步一步確実に前に進んでいる感じがします。家のことをいっばい手伝うなど、自分の役割を持つようとしています。やまびこの郷に行くと、会話も増えているように感じます。やまびこの郷の関わってくださるスタッフさんも「話しやすい」といっています。家族・親類以外のおとなと信頼関係を築いていく力も育っているように感じます。

同年代の友だちができるといいなと感じていて、目標としているのですが、宿泊体験に参加できることを直近の目標としたいと夫婦で話しています。

中学3年男子 保護者より

また、この保護者の方は、「但馬やまびこの郷で他の保護者の方とつながり、相談でき、心強く思いました」と話しておられ、保護者を元気にすることも当所の大きな役割と感じています。もし、不登校や不登校傾向のお子様のことで、お困りのことがございましたら、ささいなことでも構いませんので、遠慮なく当所までご相談ください。みなさまのご利用を心よりお待ちしております。



まこさんからのメッセージ

コロナ禍の但馬やまびこの郷

—「幸福感」は感染しますか？—



兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐藤 眞子

「いつになったら宿泊体験ができるのですか？」2020年6月以降、何度も何度も、繰り返し、子どもたちや保護者の方から尋ねられました。いまだ感染拡大が収まらない中で、但馬やまびこの郷がこの1年、出来たこと、出来なかったことを振り返ってみたいと思います。

COVID-19の感染者が日本国内で初めて見つかったから、すでに1年以上が経っています。昨年はコロナ、コロナ、コロナの1年でした。2020年3月から5月にかけての「一斉休校」では、多くの子どもが「登校せずに家にいる」ことを強いられました。但馬やまびこの郷でも、3月に予定していた宿泊体験活動を急遽中止して以降、長い「自粛期間」を過ごすことになりました。6月になって、分散登校の期間が過ぎると、学校は「通常授業」となりましたが、マスク、手洗い、消毒、換気、「密」を避ける、といった前代未聞の教育環境の中で、学校の先生方には大変なご苦労があったことでしょう。しかし、どの学校でも、さまざまに工夫しながら、通常の授業で子どもたちを守り、行事も行ってこられました。

この間、前年度まで不登校であった子どもたちは、一斉休校期間中も、その後も、それほど安定して過ごせていたわけではなかったと思います。また今年度初めて「不登校」になった子どもも多くいました。そしてその子どもたちは、やっぱり、「居場所」や「絆」を求めているのではないかと思います。



子どもたちの大切な「居場所」であるために

但馬やまびこの郷では、学校が再開されて後、どのようにしたら、子どもたちに来ていただけるか、楽しく活動していただけるかを模索してきました。近づくな、触るな、語らうな、という制限の中でも、可能な感染対策は全部やって、とにかく、子どもたちが活動出来る場を提供したいという気持ちは強く、6月からは、1日体験・1日入所を繰り返すことにしました。

宿泊体験は「8月から？」「9月から？」「いえ10月になれば・・・」となかなか開始出来ないままに、時間が経過していきました。どこの学校や施設でも作成されたことと思いますが、「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた活動マニュアル・やまびこの郷版」にそって、いつでも宿泊活動ができるように準備を整えました。一番心配であったのは、宿泊時の夜の「やまびこタイム」の過ごし方です。夜の「やまびこタイム」とは、宿泊している子どもたちが、夕食後スタッフとともに、ゲームをしたり、蛍を探しに出かけたり、満天の星を見たり、肝試しをしたり・・・といった活動プログラムにはない遊びを楽しむ時間です。子どもたちはこの時間が大好きで、つつい大きな声で笑ったり、叫んだりすることになります。でも感染対策マニュアルには、「やまびこタイムでは、

大きな声は出さず、3密を避けることに留意する」と書くことになりました。「マスクは常時着用する」「使う席等を固定する」「他人が触ったものには極力触れない」、こう書き並べると、「やっぱりやまびこタイムの楽しさは半減するよね」ということになります。

たくさんの制限がありながらも、但馬やまびこの郷のスタッフは、子どもたちに寄り添い、励まし、子どもたちを尊びたいと思ってきました。やまびこの郷が子どもたちにとっての「居場所」の一つとなるようにと願っているからです。

「幸福感」が感染する場として

「1日体験・1日入所」のプログラムは、1日の受け入れ人数を6名以内に制限して、今年度中は、3月の第2週目まで続けます。宿泊を伴わない体験活動ではありましたが、何度も何度も、重ねて来所した子どもたちも多くいました。「ここは楽しい!」と何度目かの来所で廊下を歩きながら、大きな声で叫んでいた子どもがいました。この声を聞いた時、「大声を出さないで!」と注意することはできませんでした。周りの子どもたちも、にこにこして、うなずいていたので……。



「幸福感は感染する」という論文が発表されたと何かの雑誌で読んだことがあります。ネットで検索してみますと、アメリカのハーバード大学のニコラス・クリスタキス教授らが、長年にわたって追跡調査したもので、「1マイル(約1.6キロ)以内に幸せな友人がいると、幸福になる確率が25%高くなる」と結論づけています(英医学誌, British Medical Journal, 2008)。「幸福感染」ということなのでしょう。但馬やまびこの郷に来る子どもたちは、最初不安でいっぱいですが、やまびこの郷に集った子どもの中に「楽しい!」と叫ぶような子どもが一人でもいると、その幸福感は感染し、やがて多くの子どもが「楽しい!」と叫びたくなるような現象が生じるのではないかと思います。あるいは、スタッフの方が子どもよりも先に「ここは楽しい!」と叫びたくなるようなことも多いのではないのでしょうか。この場合もスタッフの幸福感が子どもたちに感染するのでしょうか。

子ども同士の絆が深まると、もっともっと「楽しい!」と叫びたくなるような場面が増えます。そしてそれは、宿泊を伴う濃厚な接触を体験すると、さらにそうした場面が増えるのですが、残念なことに、感染拡大は収まらず、宿泊ができないままに、現在に至る(1月末)ということになってしまいました。

学校を休んだくらいで、すぐに子どもたちの「学び」がストップするわけではありません。それは、コロナ休校で具体的に示されたのではないのでしょうか。子どもたちの「学び」はとても多様で、学校だけでなく、公園でも、野原でも、海辺でも、もちろん家庭でも、子どもは学び育つことを、私たちは知っています。だからこそ、但馬やまびこの郷では、多様な活動を体験し、子ども同士でかわり、「楽しい」と感じるということがいっぱいできるように準備して、子どもが「学び育つ権利」を保障したいと考えてきたのです。

2021年はどんな年になるのでしょうか。新型コロナウイルスの感染は収束するのでしょうか。2022年の春、私たちは、また「元の普通の」生活をとりもどしているのでしょうか。テレワークが「普通」になって、働き方が変わり、オンライン授業が増え、リモート診療をこれまで以上に利用するようになっていくのでしょうか。「密」への要求は満たされるようになるのでしょうか。そして、子どもたちは、マスクをはずして、笑いあい、触れ合っているのでしょうか。いまだ先のみえない2021年の冬の時代を、私たちは今生きています。

地域やまびこ教室

但馬やまびこの郷のスタッフがみなさんの地域に出かけ、様々な体験活動や保護者交流会を行う地域やまびこ教室を、今年度は県内各地で5回開催しました。多くの方にご参加いただき、賑やかな会になりました。活動の様子と保護者交流会に参加された保護者の方の感想を紹介させていただきます。



参加された 保護者の声

ふだん同世代のお友だちと交流することが減っていたので、良い機会となりました。

進路についての悩みなどを他の保護者と話すことができ参考になりました。

他のお母さん、お父さんの想いを聞くことができ良かったです。同じ気持ちの方、同じ過程を通るんだなあと共感することばかりでした。

私も参加して、やまびこのあたたかさや楽しさが感じられて子どもが行きたくなる気持ちがよく分かりました。

やまびこ親の会

8月22日(土)・23日(日)に、当所にてやまびこ親の会を開催しました。1日目は、製作活動を通じて保護者の方同士の親睦を深めました。2日目は、子どもたちへの関わり方について、所長が講話をしました。また、両日とも開催した保護者交流会では、普段感じられていることや悩みなどを交流し、保護者の方にリラックスして意見交流していただくことができました。



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」web版 ●令和3年2月
●兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山 45-101
●TEL (079) 676-4724 ●FAX (079) 676-4721